

# 2009年のねじ産業に関する報告

Report for Fastener Industry in 2009

2009年11月

Nov. / 2009

**【IB】イワタボルト®**

SOFI Series

---

Report for Fastener Industry in 2009

18, November, 2009

Planning Section, IWATA BOLT Co., Ltd.

---

SOFI シリーズ

---

2009年のねじ産業に関する報告

2009年11月18日

編集・作成 イワタボルト(株)社長室

---

# 2009年のねじ産業に関する報告

2009年11月

---

## はじめに

2009年の我が国ねじ産業は曾てない厳しい情勢下におかれた年であったといえます。昨秋の“リーマン・ショック”以降の世界金融危機により経済活動は地球規模で麻痺する様相となり、投資と投機でその震源地となった米国は栄光を極めた自動車メーカービッグスリーまでも破綻の危機に追い込まれ政府の救済策に頼らざるを得ない事態となって、深刻な世界同時不況がもたらされました。「100年に一度の世界経済危機」(グリーンSPAN前米連邦準備制度理事会 = FRB = 議長)とまでいわれるように、戦後初めて日米欧がいずれも同時マイナス成長を余儀なくされるような情勢にあるのが実態といえるのではないのでしょうか。

今度の金融危機のあおりをうけて日本の大手自動車メーカーも生産の大幅減少から派遣社員の大量解雇を相次いで実施し社会問題にまで発展したり、協力工場は急激な受注減で窮地に追い込まれるなど、自動車に限らず産業界全体が萎縮するといった状況に直面することとなりました。

我が国の産業活動の指標となっている鋳工業生産(2005年 = 100, 季節調整済み指数。経済産業省資料)の動きをみると、2008年の 期(1~3月)109.5, 期(4~6月)108.1, 期(7~9月)104.6, 期(10~12月)は92.8と低下、2009年の 期も72.3と大きく低下しました。しかし 期は78.3と上向き7月82.6, 8月83.9, 9月85.1(速報値)と上昇、この結果、 期は83.9まで回復をみせておりますが、依然として前年比マイナスで推移している状況に変りはありません。エコカーの減税と助成制度で回復しつつある自動車需要ですが、同制度が止りやめとなるのか継続かも大きな影響のひとつとなりそうです。

このような状況の中で、我が国のねじ産業は今年に入って、以下に示すようにねじの生産(1~3月期)も、ねじの輸出も、輸入も何れも大幅に落ち込むことになりました。これらの落ち込み幅はこれまでに経験したことの無い内容となっています。このため、ねじ企業にあっても工場の稼働を止めたり、数ヵ月間も減産を続けたり、リストラも実施して切り抜けるなど手のうてる様々な対策を多くの企業がとってきています。しかし廃業せざるを得なくなったねじメーカーもでており、今回

の不況は如何に厳しい実態経済になっているかを示しているものといえます。

一方、海外に目を転じてみると BRICs や東南アジアなどの諸国で堅調な経済動向を示している地域もあり、中国は引き続いて高い成長が見込まれ自動車産業も今年は初めて1千万台を突破する勢いにあります。これにあわせて欧米の経済が通常の状態に早く回復の動きをみせてくれることを期待したいものです。

このように世界経済情勢は劇的に変化しておりますが、イワタボルトは、今年も引き続き、国内および海外ともに確固とした基盤づくりに積極的に取り組んできたところです。

米国では、当社の現地法人である IWATA BOLT USA, INC. がオハイオ工場をオハイオ州フェアフィールド市工業団地内に2009年1月に第一期工事を完了。新規設備も導入し、本格量産に向けて稼働を開始し、より一層の品質の安定と供給体制の拡充強化を図りました。

オハイオ工場は、従来のロサンゼルス工場に設置されていた機械、設備を全て移管し、更に新規の設備も導入しております。今後も得意先様のご要望に応じて、適切な設備の導入を推進していきたいと考えております。

工場の敷地面積は17エーカー（約2万1千坪）で、第一期11万1千平方フィート（約3千坪）の建屋となっております。現在の設備は、高速ヘッダー、高速ローリング、足割り機、連続浸炭熱処理炉、連続調質熱処理炉（増設）、ローラー選別機、光



完成した IWATA BOLT USA , INC . オハイオ工場全景

学選別機，完全自動3価亜鉛メッキライン（新設），各種解析試験設備を保有しています。

また，中国では，湖北省武漢市に「岩田螺絲（武漢）有限公司」および江蘇省蘇州市に「岩田螺絲（上海）有限公司蘇州分公司」を新たに開設し営業拠点を拡充。岩田貿易（深圳）有限公司では，事務所を従来の所在地であるビル3Fから2Fに移転し，新事務所の広さを従来3倍へと拡充しました。

イワタボルトは，今後も得意先様のご要望に応じて，より一層のサービス向上と安定供給をご提供させていただきたく所存です。

## （1）ねじの生産と出荷

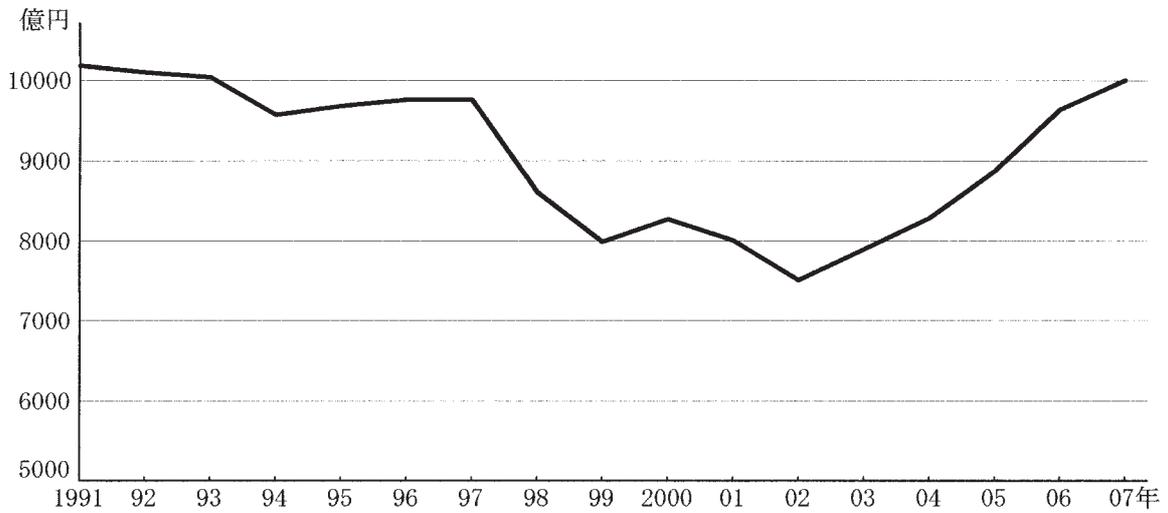
はじめに2009年のねじ生産（1～3月期）は世界経済の低迷によって大幅な落ち込みとなったことを記しましたが，日本ねじ工業協会の「ねじ生産実績調査」によると，今年1～3月のねじ生産は42万3千トンで前年同期比49.8%減，生産額は1,217億円で同48.1%減と，数量および金額ともにほぼ半減するという極めて異常な状況となりました。自動車生産の大幅減少（今年1～3月生産台数は前年同期比49.3%減）と，ねじ輸出の急減等によりねじの国内需要も海外向けも大きく落ち込んだことによるものといえます。

まず，先に経済産業省より発表された平成19年（2007年）工業統計表からねじ産業（ねじ製造業）の動向をみていくことにします。同統計表は例年2年遅れで発表されるため，最新の動向をみることはできませんが，我が国ねじ産業の全体像をうかがい知ることができます。

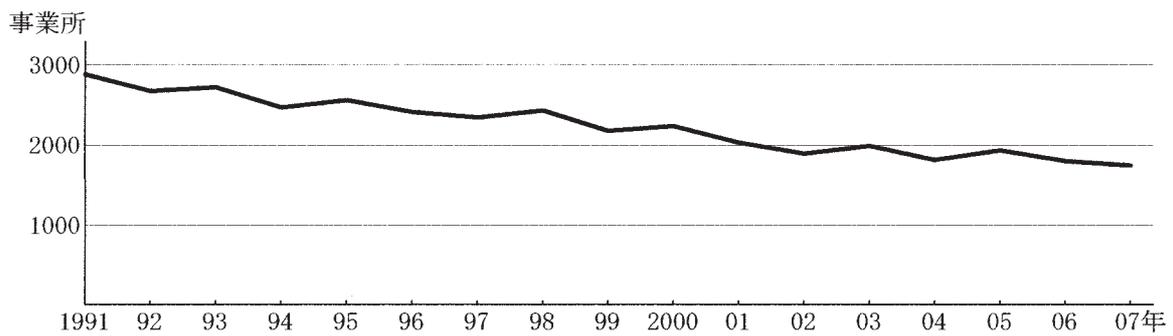
同統計によると平成19年（2007年）の我が国のねじ産業は，従業員3人以下を含めた全事業所のねじ出荷額が前年比4.6%増の1兆253億2,100万円となり，5年連続増加を示し，また，平成5年（1993年）以来実に14年振りに1兆円の大台に乗りました（表2）。後述のように同年の生産数量では前年比4.1%減となっており，これに対して出荷額が伸びているのは，同年も鉄鋼材料，ステンレス材料等の大幅値上げが続いたことから，ねじ製品への価格転嫁が進められたことによるものと思われます。ちなみに，平成5年の全事業所の出荷額1兆725億400万円のときのねじ製品トン当たり価格（座金，関連製品を除く）は26.8万円でしたが，平成19年におけるトン当たり価格（同）は32.3万円となっています。材料高騰もあって，14年前に比べるとねじ製品価格は20.5%プラスとなっています。

事業所数および従業員数については何れも前年比減少となりました。事業所数では，前年比1.2%減の4,027事業所に，従業員数も同様に前年比1.2%減の43,985人となっています。

ねじ出荷額の推移：4人以上事業所（1991年がピーク） （グラフ - 1）



事業所数の推移：4人以上事業所（1991年以降） （グラフ - 2）



従業員の推移：4人以上事業所（1991年以降） （グラフ - 3）

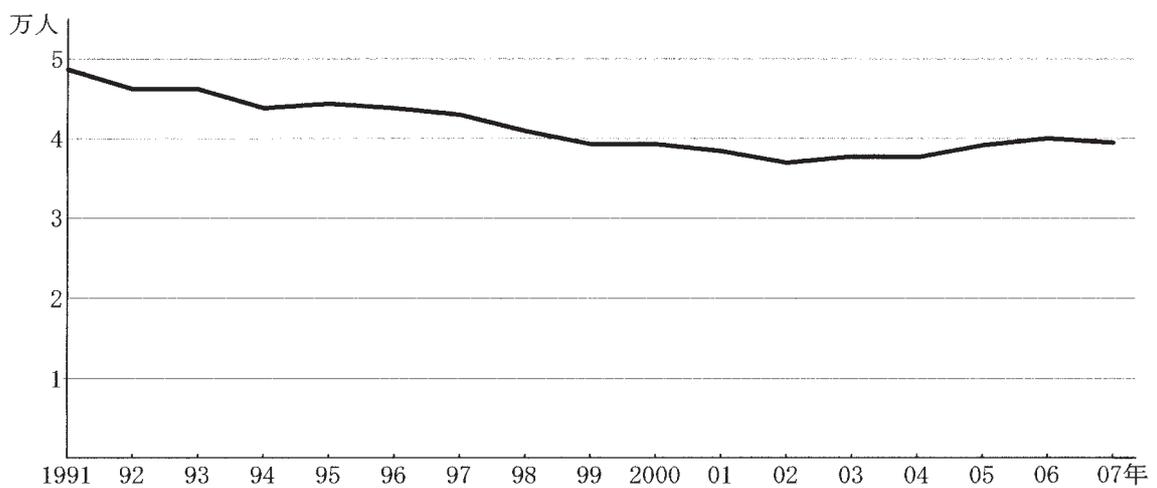


表1 ねじ産業5年間の推移（従業員4名以上，工業統計表産業編より）（出荷額・付加価値額＝百万円）

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
事業所数 %	1,989 100.0	1,816 91.3	1,933 97.2	1,802 90.6	1,744 87.7
従業員数 %	37,774 100.0	37,684 99.8	39,209 103.8	40,038 106.0	39,499 104.6
出荷額 %	789,992 100.0	828,591 104.9	887,035 112.3	959,406 121.4	1,003,624 127.0
付加価値額 %	377,984 100.0	388,536 102.8	404,339 107.0	412,175 109.0	416,224 110.1

表2 ねじ産業5年間の推移（全事業所，同産業編より）（出荷額＝百万円）

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
事業所数 %	4,224 100.0	4,104 97.2	3,939 93.3	4,074 96.4	4,027 95.3
従業員数 %	42,200 100.0	42,204 100.0	43,191 102.3	44,512 105.5	43,985 104.2
出荷額 %	814,245 100.0	852,112 104.7	910,693 111.8	980,699 120.4	1,025,321 125.9

表3 ねじ産業の推移（出荷額ピークの1991年以降，4人以上事業所）

年	事業所数	%	従業員数	%	出荷額(百万円)	%
1991	2,882	100.0	48,653	100.0	1,179,713	100.0
92	2,676	92.9	46,236	95.0	1,100,448	93.3
93	2,720	94.4	46,212	95.0	1,033,690	87.6
94	2,465	85.5	43,819	90.1	957,742	81.2
95	2,561	88.9	44,361	91.2	968,054	82.1
96	2,410	83.6	43,962	90.4	975,860	82.7
97	2,343	81.3	43,019	88.4	976,019	82.7
98	2,429	84.3	40,971	84.2	861,145	73.0
99	2,176	75.5	39,298	80.8	798,717	67.7
2000	2,239	77.7	39,634	81.5	826,796	70.1
01	2,028	70.4	38,451	79.0	800,947	67.9
02	1,892	65.6	36,971	76.0	751,656	63.7
03	1,989	69.0	37,774	77.6	789,992	67.0
04	1,816	63.0	37,684	77.6	828,591	70.2
05	1,933	67.1	39,209	80.6	887,035	75.2
06	1,802	62.5	40,038	82.3	959,406	81.3
07	1,744	60.5	39,499	81.2	1,003,624	85.1

表4 品種別出荷状況（従業員4名以上，工業統計表品目編による）（出荷量＝トン，出荷額＝百万円）

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	
ボルト・ナット	量 %	2,018,760 100.0	2,001,809 99.2	2,060,188 102.1	2,185,470 108.3	2,091,628 103.6
	額 %	539,311 100.0	557,609 103.4	600,906 111.4	658,978 122.2	649,460 120.4
小ねじ・木ねじ	量 %	228,010 100.0	211,652 92.8	215,738 94.6	281,610 123.5	272,197 119.4
	額 %	87,244 100.0	89,183 102.2	94,011 107.8	99,085 113.6	105,879 121.4
リベット	量 %	72,979 100.0	72,944 100.0	72,824 99.8	70,834 97.1	71,259 97.6
	額 %	25,510 100.0	26,761 104.9	29,095 114.1	29,434 115.4	31,268 122.6
座金	量 %					
	額 %	26,424 100.0	28,802 109.0	30,962 117.2	30,004 113.5	31,369 118.7
関連製品	量 %					
	額 %	103,243 100.0	109,735 106.3	103,795 100.5	112,636 109.1	118,942 115.2
合計	量 %	2,319,749 100.0	2,286,405 98.6	2,348,750 101.3	2,537,914 109.4	2,435,084 105.0
	額 %	781,732 100.0	812,090 103.9	858,769 109.9	930,137 119.0	936,918 119.9

次いで，工業統計表のベースとなっている従業員4人以上事業所についての状況を見ることにします（表1）。従業員4人以上事業所におけるねじ出荷額は例年，全事業所出荷額の9割強を占めており，品目別の出荷状況についても4人以上事業所の調査統計をベースにしています。ここで全事業所総出荷額のうち4人以上事業所の占める出荷額比率をみると，2007年は97.9%となっており，2006年も97.8%の比率です。また，2007年における4人以上事業所数は全事業所の43.3%（前年は44.2%）を占め，4人以上事業所の従業員数については全事業所従業員数の89.8%（前年は89.9%）を占めています。

この4人以上事業所における2007年の出荷額は1兆36億2,400万円で前年比4.6%

表5 ねじの年別生産推移

単位：生産量トン，出荷額百万円（日本ねじ工業協会資料より）

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	08 / 07%	
ボルト	量	1,669,042	1,743,127	1,871,084	1,984,994	1,871,192	- 5.7
	額	357,064	393,710	441,592	481,692	484,716	+ 0.6
ナット	量	851,978	902,312	944,229	1,026,422	1,032,297	+ 0.6
	額	239,551	263,610	283,446	305,557	301,896	- 1.2
小ねじ	量	291,969	305,284	303,108	318,167	299,363	- 5.9
	額	102,693	105,443	103,842	110,127	108,241	- 1.7
木ねじ	量	6,641	6,628	6,566	5,905	5,967	+ 1.0
	額	3,021	3,110	3,043	3,165	3,184	+ 0.6
合計	量	2,819,630	2,957,351	3,124,987	3,335,488	3,208,819	- 3.8
	額	702,329	765,873	831,923	900,541	898,037	- 0.3

増，事業所数1,744事業所で前年比3.2%減，従業員数については39,499人で前年比1.3%減となっています。4人以上事業所数は，前年の1,802事業所から58事業所の減少となり，初めて1,800の事業所数を割り込むことになりました。

付加価値額（生産額から消費税を除く内国消費税額と推計消費税額および原材料使用額等と減価償却額を差引いたもの）も4,162億2,400万円で前年比1.0%プラス（前年は1.9%プラス）となりました。

次に，従業員4人以上事業所における5品目の品目別出荷状況（表4）をみると，以下のようになっています。

ボルト・ナットは数量および金額ともに前年比減となり，小ねじ類（木ねじを含む）は数量が減少したものの金額は増加し，リベットは数量および金額ともに増加，数量統計のない座金とボルト・ナット等関連製品の出荷額は何れも増加しました。

まず，ボルト・ナットは数量で前年比4.3%減の209万1,628トン，金額では同1.4%減の6,494億6,000万円に，小ねじ類は数量で3.3%減の27万2,197トン，金額では6.9%増の1,058億7,900万円，リベットは数量で6.0%増の7万1,259トン，金額では6.2%増の312億6,800万円に。座金類は4.5%増の313億6,900万円で，ボルト・ナット等関連製品も5.6%増の1,189億4,200万円に。

これらの5品目の合計は，数量（座金類と関連製品は数量統計がない）で前年比4.1%減の243万5,084トン，金額では同0.7%増の9,369億1,800万円となっています。数量では前年の250万トン台の生産を割り込みました。

また，この5品目についての出荷額比率をみると，ボルト・ナットは69.3%（前年70.8%），小ねじ類が11.3%（同10.7%），リベットが3.3%（同3.2%），座金類が

3.3% (同3.2%), ボルト・ナット等関連製品が12.7% (同12.1%) となっています。ボルト・ナットに次いで関連製品の出荷額が多くなっています。

なお、この表4と表1の出荷額が一致していないのは表1の出荷額には製造品出荷額に加工賃収入額、製造工程からでたくずなどの出荷額およびその他の収入額が含まれているため。消費税及び内国消費税を含んでいます。

続いて、昨年2008年のねじ生産状況について日本ねじ工業協会の資料をもとにみると表5に示すように、生産量および生産額ともに減少となっています。

この資料はボルト・ナット、小ねじ(タッピンねじを含む)および木ねじの4品目について調査したものです。ボルトは数量で前年比5.7%減の187万1,192トン、金額は同0.6%増の4,847億1,600万円、ナットは数量が0.6%増の103万2,297トン、金額は1.2%減の3,018億9,600万円、小ねじ類は数量が5.9%減の29万9,363トン、金額は1.7%減の1,082億4,100万円、木ねじは数量が1.0%増の5,967トン、金額は0.6%増の31億8,400万円に。

これら4品目合計の生産は、数量で320万8,819トン(前年比3.8%減)、金額は8,980億3,700万円(同0.3%減)、となっています。

生産数量では3年連続して300万トン台を維持しましたが、前年比マイナスとなったのは2001年以来、8年ぶりのことです。

冒頭でもふれたように2008年9月のリーマン・ショック以降、経済情勢は大きく変化したことで、同協会調査の月別生産推移の状況をみてもその影響が表れていることがわかります。2008年1~3月期の生産は84万1,748トン(2,346億3,200万円)、4~6月期は85万8,336トン(2,333億9,200万円)、7~9月期は81万995トン(2,285億2,200万円)と推移していたのが、10~12月期になると69万7,740トン(2,014億9,100万円)へと落ち込みをみせています。第4四半期の生産は数量で第3四半期に比べると14.0%マイナスに、金額では同11.8%マイナスという状況を示しています。

この状況は2009年に入ってから続き、今年1~3月期の生産は42万3,000トンで前年同月比49.8%減、生産額では1,217億円で同48.1%減と大幅な生産減に追い込まれています。同協会ではねじ生産実績調査について統計品目の一部変更を進めており、このため4月以降の生産調査を発表していませんが、4~6月期以降の動向もおそらく同様の傾向で推移し、助成制度等によるエコカーの生産台数の増加などとともにねじ需要にもそれが反映され、少なくとも最悪期からの脱出に向かっていくものと推測されるようです。

自動車産業はねじ需要の一大産業となっており、自動車の生産状況が我々ねじ業界に大きな影響力をもっている訳ですが、前記にもふれてきたように今回の経済危機は、この自動車の生産はじめ新規設備投資の中止や繰延べなどに伴う工作機械の

生産台数の大幅減等々、それこそ100年に一度の危機に産業界はさらされました。

ねじ需要産業の動向（参考）を後の項に示しましたが、自動車の国内生産台数は2009年上半期（1～6月）は331万9,8百万台で前年同期（604万6,6百万台）比で実に45.1%減となり、我が国のモータリゼーションが始まった昭和30年代以降初めての歴史的減少幅となったといえるでしょう。

こうした情勢下にありながらも環境保全の一層の高まりから、自動車はハイブリッド車や電気自動車、燃料電池車、ソーラーカーといった“エコカー”開発と量産化にカーメーカーが積極的に取り組みをはじめ、これらエコカーの需要が増えているのは注目されるところです。これらの新しい需要拡大により自動車の生産台数も今年2月の48万台を底に、増減はあるものの月を追う毎に回復の傾向をみせています（生産状況は後述を参照）。

## （2）ねじの輸出

我が国のねじ輸出は、2008年後半から2009年にかけて激変の様相となりました。これまで最大の輸出先国でありその座にあった米国向け輸出が大幅に減少、今年に入ってから減少が続き、対米輸出の状況は一変しました。米国経済の象徴である自動車産業のGM、フォード、クライスラーが経営危機に陥り大量解雇と大幅な生産縮小に追い込まれたこともその大きな要因のひとつです。

対米ねじ輸出は1980年代は数量・金額ともに全輸出の70%以上を占め、1990年代も45%前後で推移、2004年から数量で40%を割り込み2007年まで30%台を維持してきましたが、2008年には初めて数量・金額の何れも20%台にまで比率が減少。対米比率がこのように下がってきたのは相対的に他の諸国・地域への輸出増加もあり、特に中国向けは近年著しい伸びを示していることにもよります。

近年、米国に次ぐ第二の輸出先国となったその中国向けは今年2009年上半期には初めて首位におどり出ました。この上半期は中国向けも減少しましたが、米国向けが減少したことで相対的に中国が第一位のねじ輸出先国になっています。このように、2009年のねじ輸出は様相を大きく変えているのが特徴的です。

まず、2008年のねじ輸出からみていくと、数量では前年比0.3%微増の30万1,663トン、金額では1.2%減の2,543億8,260万円となり、輸出額では2001年以来8年振りの前年比マイナスとなりました。輸出数量では、2年連続で30万トン台を維持しましたが、下期には年末に向って輸出が減少し12月の単月をみても数量で前年同月比32.9%減の18,789トン、金額も同31.9%減の158億1,700万円と3割以上の大幅な減少に。上期の輸出の伸びから下期は一転した状況となりました。

主力の米国輸出は同年、数量で前年比17.0%減の8万698トン、金額も18.7%減の

表6 ねじの輸出

単位：生産量トン，金額百万円（貿易統計より）

		2007年	2008年	増減%	2009.1～6
鉄鋼製ボルト	重量	165,289.2	167,166.0	+1.1	50,655.6
	金額	103,487.8	104,841.5	+1.3	32,533.2
ステンレスボルト	重量	3,078.7	3,349.5	+8.8	759.5
	金額	4,781.8	4,667.3	-2.4	1,478.6
鉄鋼製ナット	重量	69,884.4	70,292.6	+0.6	18,117.2
	金額	56,024.4	55,741.4	-0.5	14,992.1
ステンレスナット	重量	962.5	767.4	-20.3	370.3
	金額	2,384.6	2,092.4	-12.3	815.0
鉄鋼製タッピンねじ	重量	11,564.0	10,946.3	-5.3	3,243.0
	金額	11,987.3	11,629.6	-3.0	3,324.8
鉄鋼製木ねじ	重量	217.6	258.7	+18.9	74.3
	金額	326.4	389.6	+19.4	72.1
鉄鋼製その他のねじ	重量	18,582.4	18,267.9	-1.7	5,082.4
	金額	34,443.7	33,048.5	-4.1	9,328.0
鉄鋼製その他ねじ付品	重量	2,485.1	2,459.6	-1.0	972.9
	金額	2,366.2	2,019.4	-14.7	775.7
鉄鋼製リベット	重量	3,119.0	3,316.9	+6.3	793.8
	金額	4,717.0	4,509.0	-4.4	1,203.1
鉄鋼製ねじ無製品	重量	7,791.0	8,165.7	+4.8	2,008.0
	金額	11,152.1	11,369.8	+2.0	3,277.1
鉄鋼製コーチねじ	重量	92.6	45.9	-50.4	10.9
	金額	212.2	110.2	-48.1	24.4
鉄鋼製スクリューフック	重量	29.2	53.7	+83.9	13.1
	金額	45.9	75.8	+65.1	17.6
鉄鋼製ばね座金	重量	1,828.5	1,822.4	-0.3	354.3
	金額	2,905.2	2,761.7	-4.9	771.3
鉄鋼製平座金	重量	14,316.6	13,171.4	-8.0	3,308.0
	金額	19,207.5	17,644.1	-8.1	4,615.0
鉄鋼製コッタピン	重量	703.0	1,028.6	+46.3	301.9
	金額	1,350.4	1,853.6	+37.3	537.0
銅製品	重量	823.8	550.5	-33.2	167.4
	金額	2,175.1	1,628.7	-25.1	453.4
総計	重量	300,767.6	301,663.1	+0.3	86,232.6
	金額	257,567.6	254,382.6	-1.2	74,218.4

552億7,450万円と減少，このため対米輸出比率は数量で26.8%（前年32.3%），金額で21.7%（同26.4%）まで一挙に下がり，数量と金額がともに初めて30%台を割り込みました（金額では2006年から30%を割って推移しています）。

2006年から第二の輸出先国となっている中国向けは，数量で前年比20.2%増加の

表7 ねじの輸出（主要国別，銅製品を除く）

単位：トン（貿易統計より）

	2007年	2008年	増減%	国別比率	2009.1~6
総計	299,943.8	301,112.6	+0.4	100.0	86,065.2
米 国	96,999.6	80,623.8	-16.9	26.8	16,761.4
欧 州	49,290.8	45,054.9	-8.6	15.0	11,693.7
韓 国	2,292.4	3,007.7	+31.2	1.0	723.3
中 国	48,008.0	57,706.0	+20.2	19.2	23,887.5
台 湾	4,354.0	3,533.8	-18.8	1.2	1,578.5
香 港	3,050.8	3,101.0	+1.6	1.0	938.2
タ イ	35,366.7	38,745.4	+9.6	12.9	7,911.8
シンガポール	1,986.8	2,313.9	+16.5	0.8	534.2
マレーシア	5,284.5	5,593.1	+5.8	1.9	2,036.3
インドネシア	12,509.5	17,753.5	+41.9	5.9	5,436.3
フィリピン	3,368.4	3,570.4	+6.0	1.2	845.6
カ ナ ダ	4,232.6	3,863.2	-8.7	1.3	1,421.7
メ キ シ コ	10,878.3	10,170.7	-6.5	3.4	2,981.8
ブ ラ ジ ル	4,705.7	6,478.4	+37.7	2.2	1,967.9
イ ン ド	4,067.9	6,542.3	+60.8	2.2	3,740.9
オーストラリア	4,345.0	4,121.9	-5.1	1.4	1,045.1
他	9,202.8	8,932.6	-2.9	3.0	2,561.0

表8 ねじ輸出5年間の推移

（貿易統計より）

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
数量(トン)	227,150.9	249,443.0	266,364.8	300,767.6	301,663.1
%	100.0	109.8	117.3	132.4	132.8
金額(百万円)	175,215.5	195,393.4	222,763.6	257,567.6	254,382.6
%	100.0	111.5	127.1	147.0	145.2

5万7,705トン，金額も14.0%増の506億7,500万円と2桁の増加。しかし，増伸を続けてきた対中国輸出についても12月の実績でみると数量で前年同月比17.3%減の4,227トン，金額で18.9%減の36億3,700万円に落ち込んでいます。

東南アジア地域向けでは，タイへの輸出が数量で前年比9.6%増の3万8,745トン，金額で4.1%増の387億4,500万円と増加，インドネシア向けも数量で前年比41.9%増の1万7,753トン，金額で40.7%増の138億9,400万円と増加しました。マレーシア，フィリピン，シンガポール向けなどもそれぞれ増加しています。

また，インド向けが数量で前年比60.8%増の6,542トン，ブラジル向けが37.7%増の6,478トンと大きな伸びを示しています。

次に，品目別の輸出状況 表6 をみると，全16品目のうち主要品目で数量および金額ともにマイナスとなったのはステンレスナット，タッピンねじ，其他ねじ，

其他ねじ付製品，ワッシャ類などです。鉄鋼製ボルトは増加しています。

鉄鋼製ボルトは数量で1.1%増の16万7,166トン，金額1.3%増の1,048億4,100万円，ステンレスボルトは8.8%増の3,349トン，金額は2.4%減の46億6,700万円に，鉄鋼製ナットは0.6%増の7万292トン，金額は0.5%減の557億4,100万円，ステンレスナットは20.3%減と落ち込み767トン，金額も12.3%減の20億9,200万円に。

鉄鋼製タッピンねじは5.3%減の1万946トン，金額も3.0%減の116億2,900万円となり，鉄鋼製其他ねじは1.7%減の1万8,267トン，金額では4.1%減の330億4,800万円に，鉄鋼製其他ねじ付製品は1.0%減の2,459トン，金額は14.7%減で20億1,900万円，鉄鋼製リベットは6.3%増の3,316トン，金額では4.4%減の45億900万円，鉄鋼製ねじ無製品は4.8%増の8,165トン，金額も2.0%増の113億6,900万円と増加。

ワッシャ類は，ばね座金，平座金ともに減少。鉄鋼製コッタピン（コッター及びコッターピン）は数量で46.3%増の1,028トン，金額も37.3%増の18億5,300万円と1千トンを超えたのが注目されます。

続いて2009年上半期（1～6月）のねじ輸出状況を見ると，前記のように様変わりしています。数量では前年同期比45.4%減の8万6,232トンに，金額も同43.3%減少の742億1,800万円と大幅減少し，半減近い落ち込みようです。

主力の米国向け上半期輸出は数量で前年同期比62.9%減の1万6,761トンへと激減，中国向けは19.4%減，タイ向け58.7%減，インドネシア向け34.4%減，マレーシア向け26.0%減，メキシコ向け36.7%減，それにブラジル向けも33.7%減，欧州向けも53.4%減と殆どの諸国・地域向けが大幅な減少となりました。

このような輸出状況の中で，主要輸出先のうちインド向けだけが前年同期比31.6%増の3,740トンと大きな伸びを示しました。インドは超低価格車の生産でも注目されていますが，各国自動車メーカーが進出するなど工業発展を続けているBRICs 4カ国のうちのひとつです。

また，この2009年上半期は，米国輸出が大幅減の1万6,761トンとなり，中国向けも19.4%減となったものの輸出数量では23,887トンと米国向けを上回ったことから，対中国輸出が初めて第一位となりました。

ともあれ，このようなねじ輸出の激減はこれまでになかったことであり，1985年の過度のドル高是正でプラザ合意が行われた後の輸出大幅減を上回る状況となっているのが実態です。

### （3）ねじの輸入

前項のように輸出が大幅減を示しましたが，ねじ輸入についても2008年は減少と

表9 ねじの輸入（品目別）

単位：重量トン，金額百万円（貿易統計より）

		2007年	2008年	増減%	2009.1～6
鉄鋼製ボルト	重量	84,579.1	88,452.2	+4.6	29,018.3
	金額	24,728.8	26,994.5	+9.2	7,754.8
ステンレスボルト	重量	13,308.5	8,360.7	-37.2	3,990.4
	金額	9,547.9	5,361.5	-43.8	1,676.5
鉄鋼製ナット	重量	28,290.5	30,706.5	+8.5	8,612.4
	金額	15,942.1	16,568.9	+3.9	4,441.3
ステンレスナット	重量	6,872.6	4,352.5	-36.7	1,794.6
	金額	6,961.3	4,520.3	-35.1	1,416.4
鉄鋼製タッピンねじ	重量	7,840.4	7,124.4	-9.1	2,429.8
	金額	2,010.4	1,967.8	-2.1	693.5
鉄鋼製木ねじ	重量	15,300.8	16,001.6	+4.6	5,404.2
	金額	3,619.5	3,982.8	+10.0	1,183.0
鉄鋼製その他のねじ	重量	26,781.0	26,099.9	-2.5	9,877.3
	金額	11,831.3	11,893.0	+0.5	3,891.6
鉄鋼製その他ねじ付品	重量	6,456.1	6,597.4	+2.2	3,171.9
	金額	3,212.1	3,046.9	-5.1	1,252.3
鉄鋼製リベット	重量	1,049.9	811.9	-22.7	278.3
	金額	1,435.6	1,131.6	-21.2	389.5
鉄鋼製ねじ無製品	重量	4,833.4	3,796.7	-21.4	1,593.3
	金額	5,863.1	4,793.7	-18.2	1,494.8
鉄鋼製コーチねじ	重量	1,782.6	1,257.1	-29.5	346.4
	金額	349.3	243.2	-30.4	57.5
鉄鋼製スクリーフック	重量	576.1	619.6	+7.6	201.7
	金額	270.8	315.9	+16.7	125.3
鉄鋼製ばね座金	重量	6,025.1	6,110.1	+1.4	1,151.6
	金額	1,569.1	1,522.0	-3.0	350.6
鉄鋼製平座金	重量	13,702.3	13,097.6	-4.4	3,834.5
	金額	6,350.4	5,930.7	-6.6	1,756.7
鉄鋼製コッタピン	重量	1,468.2	1,831.3	+24.7	651.7
	金額	546.6	643.2	+17.7	181.2
銅製品	重量	1,759.8	2,072.6	+17.8	703.9
	金額	3,148.3	3,411.9	+8.4	948.7
総計	重量	220,626.4	217,292.1	-1.5	73,060.3
	金額	97,386.6	92,327.9	-5.2	27,613.7

なり，2009年上半期はさらに大幅な落ち込みとなりました。

先ず2008年のねじ輸入の状況は，数量で前年比1.5%減の21万7,292トン，金額は5.2%減の923億2,700万円となり，1998年以来の10年振りの減少です。

しかし，ステンレスボルトとステンレスナットの2品目を除く鉄鋼製ねじ類では

表10 ねじの輸入（主要国別，銅製品を除く）

単位：トン（貿易統計より）

	2007年	2008年	08 / 07増減%	国別比率	2009.1～6
総計	218,866.7	215,219.5	-1.7	100.0	72,356.4
米 国	1,758.9	2,050.3	+16.6	1.0	405.5
欧 州	2,569.7	2,425.9	-5.6	1.1	859.9
韓 国	9,154.0	8,718.1	-4.8	4.1	2,446.5
中 国	124,382.1	126,211.0	+1.5	58.6	45,168.8
台 湾	57,689.4	54,986.7	-4.7	25.5	18,191.7
タ イ	4,548.5	4,812.3	+5.8	2.2	1,172.5
シンガポール	43.5	63.4	+45.7	0.0	34.1
マレーシア	2,989.6	1,937.0	-35.2	0.9	839.0
インドネシア	3,356.0	3,915.4	+16.7	1.8	398.5
ベトナム	11,625.0	9,345.2	-19.6	4.3	2,572.1
他	750.0	754.2	+0.6	0.4	267.8

表11 ねじ輸入5年間の推移

（貿易統計より）

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
数量(トン)	174,704.8	188,626.7	203,507.6	220,626.4	217,292.1
%	100.0	108.0	116.5	126.3	124.4
金額(百万円)	50,146.4	60,584.0	76,602.2	97,386.6	92,327.9
%	100.0	120.8	152.8	194.2	184.1

数量で前年比1.9%増の20万2,506トン，金額も1.7%増の790億3,400万円とプラスになっています。つまり，ステンレス製ボルト・ナットの輸入が37.0%減の1万2,713トンと前年から7,500トン近く減少し，金額も40.1%減の98億8,100万円に大きく落ち込んだことで，輸入全体の数量・金額がマイナスとなりました。

ねじ輸入で調達先の主力は中国であり，次いで台湾，ベトナム，韓国，タイ，インドネシアなどの順ですが，中国からの輸入は12万6,211トン，289億9,600万円と総輸入量（鉄鋼製）の58.6%を占め最大の調達国となっており，数量では前年比1.5%増に。台湾からの輸入は5万4,986トン，171億2,100万円で，数量で前年比4.7%減，ベトナムからの輸入は9,345トン，15億8,700万円で数量で19.6%減と落ち込んでいます。韓国からの輸入は8,718トン（前年比4.8%減），37億6,300万円に，タイからの輸入は4,812トン（同5.8%増），22億9,400万円，インドネシアからの輸入は3,915トン，14億8千万円という状況です。

これに米国からの輸入が2,050トン（同16.6%増），250億1千万円，マレーシアからの輸入が1,937トン（同35.2%減），10億6,100万円と続いており，以下，ドイツから810トン，24億7,900万円，スイスから810トン，7億9,800万円，イタリアから195トン，2億9,900万円，インドから151トン，1億600万円，ニュージーランド

から149トン，4,700万円，フランスから147トン，7億5,400万円，フィリピンから145トン，9,700万円，英国から129トン，13億3,300万円と輸入されています。以上の16カ国・地域から2008年は100トン以上を輸入しました。

このほかでは，スペインから97トン，オーストラリアから88トン，カナダから70トン，シンガポールから63トン，オーストラリアから55トン，アラブ首長国連邦から51トン，アイルランドから48トン，スウェーデンから44トン，スリランカから34トン，香港から24トン，トルコから21トン，ベルギーから13トン，メキシコから13トン，チェコから13トン，バングラデシュから10トン，などとなっています。

ここで参考までに輸入数量と輸入金額からトン当たりのねじ製品の輸入価格の状況をみると，トン当たり平均輸入価格は41.3万円ですが，アジア製品は27.0万円，米国製品は1,219.8万円，欧州製品は269.9万円という状況です。

アジア製品の価格の割安さが目立ちますが，最大の調達先である中国製品の場合はどうかといいますと23.0万円，台湾製品は31.1万円，ベトナム製品は17.0万円，というような状況になっています。ベトナムからのねじ輸入が数年来，急増してきたのはこの調達コストの安さからでしょう。

2009年上半期（1～6月）のねじ輸入については，我が国の鋳工業生産の低迷から数量で前年同期比34.6%減の7万3,060トン，金額で40.1%減の276億1,300万円へと大幅な落ち込みとなっています。この減少幅は1998年上半期の18.7%減（数量）以来の記録的なマイナス幅です。

国・地域別にみると，主要調達先で前年同期比増えたのはマレーシアだけでステンレスボルト・ナットを中心に36.6%増の839トン，3億8,900万円を輸入。

中国からの輸入は前年同期比31.1%減の4万5,168トン，台湾からの輸入は33.9%減の1万8,191トン，ベトナムからの輸入は52.5%減と半減の2,572トン，韓国からの輸入も43.3%減の2,446トン，タイからの輸入も52.2%減の1,172トン，というように大幅に減少。また，米国からの輸入も63.0%減の405トン（77億8千万円）と大きく落ち込み，欧州諸国からの輸入も38.2%減の859トンにとどまっています。

品目別で増加したのはステンレスボルトのみで0.4%微増の3,990トン，16億7,600万円が輸入され，銅製品を含む他の15品目すべてがマイナスとなっています。

#### （4）ねじの流通

ねじがメーカーで生産され最終需要家に使用されるまでの流れとして，いわゆる直需ルート（ねじメーカー 需要家），流通商社ルート（ねじメーカー 卸屋 直需商社 需要家），流通商社ルート（ねじメーカー 直需商社 需要家）の3つのルートに大別されますが，さらにねじメーカー或いは問屋からDIYなどの大型店へ

表12 ねじ流通商社の推移（ねじ商連調査資料を参考に作成）

（販売高・百万円）

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
企業数	363	360	368	366	365
%	100.0	99.2	101.4	100.8	100.6
従業員数	7,487	7,297	7,626	8,661	8,352
%	100.0	97.5	101.9	115.7	111.6
販売高	397,644	390,990	464,859	488,833	446,863
%	100.0	98.3	116.9	122.9	112.4

のルートや、仲間取引（それぞれ得意とする商品の流通商社間での相互取引など）というようにそれぞれのルートを経てユーザーに届けられています。また、機械工具店や金物店などの小売店によるねじの販売もあります。

多品種にわたるねじ部品はこうして最終ユーザーに納められていますが、これらのねじ流通商社が年間に取扱う我が国ねじ生産額に対する割合はおよそ45～50%に達しているものと思われます。それだけに、ねじ流通商社は我が国の工業発展に重要な役割と機能を果たしているといえます。

このねじ流通を担う事業者の全国団体である日本ねじ商業協同組合連合会が毎年実施している「ねじ流通商社経営実態調査報告書（平成19年）」（平成19年4月1日～同20年3月31日を期間として調査。会員365社）によると、平成19年における年商高（推定）は前年度比8.6%減の4,468億6,300万円となり、平成16年度以来3年ぶりのマイナスとなりました。1社平均年商高も前年度比3.3%減の12億8,930万円で平成16年度に次いでマイナスとなっています。しかし、この1社平均の年商高は、平成元年（1989年）以降では、前年度（平成18年度）の13億3,300万円、平成3年度の12億9,500万円に次ぐ年商高となっています。

会員数は365社で前年度から1社減少しましたが、平成16年度は360社、同17年度368社、同18年度366社と推移しています。また、このねじ流通商社の従業員数は8,352人で前年度比3.6%減となりましたが、平成16年度は7,297人、同17年度は7,626人、同18年度は8,661人と推移しています。

同調査ではまた、東京、神奈川、愛知および大阪の4地区別の推定年商高について示していますが、この地区別の販売状況では、東京地区が2,099億8,500万円（年商高総額比47.0%）、神奈川地区は88億2,500万円（同2.0%）、愛知地区は600億円（同13.4%）、大阪地区が1,680億5,200万円（同37.6%）となっています。東京地区は前年度に比べ2.7ポイント上昇、神奈川地区は0.4ポイント上昇、愛知地区は9.9ポイント低下、大阪地区は6.9ポイントの上昇です。

輸出については、平成19年度は167億3,300万円で前年度比10.9%増となっていま

す。平成16年度以降の輸出の動向をみると、平成16年度は103億1,600万円、同17年度は136億9,300万円、同18年度は153億7,300万円と推移しており、ねじ流通商社の海外市場への輸出が増加している状況がわかります。これは、取引先ユーザーの海外進出に伴い、これらのユーザー向けに納入する営業展開が高まっていることによるものと思われます。

取扱い品目の状況では、規格品を中心とした市販用ねじ類（ワッシャ等を含む）が43%、特注品ねじ類（加工品）が36%、その他（ねじ類以外）が21%という取扱状況です。特注品ねじ類の比率が前年度の33%から3ポイント上昇していますが、受注製作物、図面物など付加価値のより高い製品の取扱いにウエイトをおいた営業活動が進められたことが推測されます。

なお、JIS六角ボルトおよび六角ナット規格の附属書が2009年12月31日限りで廃止されることになっていましたが、この附属書による規格製品の需要の現状やねじ流通業界における取扱いの実情などから同附属書廃止について業界関係各方面より廃止した場合の問題点が提起され、対応策について協議が重ねられてきました。このような経緯と審議をへて、同附属書は「2014年12月31日限りで廃止する」との追補改正がなされ、廃止期限が5年間延長されることになりました。

ISO国際規格との整合化は世界各国との貿易の進展の面でも必要なことですが、国際標準化は各国の利害もからむなど課題も少なくありません。例えば、中国はインチ規格の復活に向けて積極的な取り組みを展開しています。

こうした動向についても、我々は注視していくことが必要と思われます。

## ねじ需要産業の動向（参考）

先にもふれてきたように昨秋以降の金融・経済危機により我が国の機械工業は極めて大きな打撃をうけ、ねじ需要の主力産業のひとつである自動車はじめ電機、産業機械、工作機械、情報・通信機械等の多くの工業分野にわたって生産が急減することとなりました。初めの項の鋳工業生産指数の動きにみるように今年3月（生産指数70.6%）を底に月を追って徐々に上昇の傾向にありますが、以下に主な工業製品の生産動向を実数値でみることにします。

先ず、自動車は2008年生産が1,154万台余となり1千万台の大台は超えたものの前年比では微減ながらマイナス0.3%と平成13年以来の前年比減となりました。しかし、今年2009年の2月には前年同期比で実に56.2%減の48万755台まで大幅に生産台数が落ち込み、半減以下となる事態になりました。その後は、エコカーの普及対策などから跛行的ながら月を追って生産は回復へ向っていますが、今年上半期実績（1～6月）でみると331万9,827台と前年同期比45.1%減少です。7月以降の生

## 自動車

(台)

	乗 用 車	軽 乗 用 車	ト ラ ッ ク	軽トラック	バ ス	計
平成18年	8,217,693	1,538,822	1,102,454	520,267	88,637	11,467,873
19年	8,503,196	1,441,441	1,067,483	453,587	113,670	11,579,377
20年	8,488,792	1,427,397	1,044,535	443,718	139,102	11,543,544
21年 1月	376,096	118,747	41,135	31,899	8,238	576,115
2月	293,756	109,388	39,935	31,117	6,559	480,755
3月	344,997	123,472	42,577	35,090	5,746	551,882
4月	316,999	98,805	33,755	30,674	4,985	485,218
5月	382,368	87,670	39,619	27,359	5,064	542,080
6月	491,624	106,324	45,994	33,250	6,585	683,777
1～6月計	2,205,840	644,406	243,015	189,389	37,177	3,319,827

## 工作機械, 他

(台)

	工 作 機 械	油圧・空圧機器	はん用内燃機関	フォークリフトトラック
平成18年	100,356	83,220,381	7,932,923	155,309
19年	106,282	84,727,931	8,036,899	171,128
20年	95,267	79,142,051	7,860,312	174,025
21年 1月	3,504	2,984,740	480,025	6,016
2月	3,031	2,228,622	432,596	5,661
3月	2,895	2,339,104	445,423	5,858
4月	2,066	2,468,100	407,315	4,321
5月	1,403	2,398,646	355,755	4,341
6月	1,530	3,200,591	427,019	5,820
1～6月計	14,429	15,619,803	2,548,133	32,017

## 家 電

	液 晶 テ レ ビ	プラズマテレビ	電 気 洗 濯 機	電 気 冷 蔵 庫
平成18年	5,968,171台	1,097,248台	2,558千台	2,783千台
19年	7,308,435	1,287,259	2,397	2,433
20年	8,440,115	1,233,854	2,294	1,924
21年 1月	582,721	41,832	171	89
2月	542,647	78,335	167	108
3月	615,175	89,028	176	114
4月	625,528	88,534	175	178
5月	600,938	91,925	157	166
6月	810,091	99,384	176	236
1～6月計	3,777,100	489,038	1,023	891

産状況では、7月が74万2,000台（前年同月比31.6%減）、8月が57万1,516台（同25.6%減）、そして9月は速報値で82万9,781台（同21.3%減）と推移しており、9月実績では月間ベースで今年初めて80万台を超えました。また、前年同月比の減少

デジタルカメラ，複写機など

(台)

	デジタルカメラ	ビデオカメラ	デジタル複写機	フルカラー複写機
平成18年	37,150,161	12,524,360	204,253	274,487
19年	32,280,819	10,226,889	186,346	272,064
20年	36,273,184	7,927,788	123,305	223,151
21年 1月	1,042,339	196,447	4,556	14,145
2月	1,458,789	389,124	6,046	11,219
3月	2,071,631	290,268	9,559	13,762
4月	2,816,833	390,500	5,582	13,203
5月	2,487,692	340,093	5,455	10,537
6月	2,067,308	335,873	6,079	14,211
1～6月計	11,944,592	1,942,305	37,277	77,077

パソコン，携帯電話ほか

	パソコン	携帯電話	DVDビデオ	カーナビ
平成18年	8,533,849台	48,034千台	2,045,793台	5,332,501台
19年	8,353,041	45,891	1,486,150	5,747,060
20年	7,524,085	35,325	2,365,540	5,666,313
21年 1月	515,649	1,876	145,783	248,823
2月	528,371	2,209	150,197	233,005
3月	736,084	2,228	179,764	326,806
4月	545,674	1,349	184,881	373,693
5月	400,737	2,187	160,063	379,318
6月	561,824	3,000	185,225	537,933
1～6月計	3,288,339	12,849	1,005,913	2,099,578

産業ロボットほか

(台)

	数値制御ロボット	プレイバックロボット	飲料自動販売機	セパレート型エアコン
平成18年	22,882	56,681	339,782	5,858,623
19年	22,675	61,139	331,767	5,519,567
20年	20,339	60,435	340,194	5,326,762
21年 1月	655	2,411	27,801	328,414
2月	595	1,850	30,599	323,342
3月	549	1,900	27,421	399,801
4月	479	1,390	26,941	542,075
5月	609	1,524	24,200	545,855
6月	569	1,432	23,668	612,130
1～6月計	3,456	10,507	160,630	2,751,617

幅もこれまでのところ月を追って小さくなってきています。

工作機械の生産は2008年は9万5,267台で前年比10.4%減，今年1月以降も減少が続き5月には1,403台まで落ち込んで，上半期（1～6月）は1万4,429台となり

前年同期比では72.6%という大幅減です。7月の生産は1,760台（前年同月比78.5%減）、8月は1,677台（同78.3%減）と厳しい状況が続いており、鉱工業生産指数は上昇の傾向にあるとはいえ、産業界における設備投資は依然として低迷している状態にあることがわかります。

フォークリフトトラックは物流業務の車両として活用され、産業界や物流業界が好況のときには生産台数も増え、平成15年の10万9,454台から年々増加して平成20年も前年比1.7%増の17万4,025台に。しかし今年上半期（1～6月）の生産台数は3万2,017台で前年同期比65.7%減に落ち込んでいます。4月生産は4,321台まで減少しましたが、7月には6,280台、8月は5,241台、9月7,529台と推移。しかし、前年の月平均1万4,500台の生産台数からみると半減の状況です。

家電関係では、液晶テレビが昨年は844万台で前年比15.5%増、今年上半期（1～6月）では377万7,000台で前年同期比0.6%減、7月は80万9,311台（前年同月比9.4%増）、8月は73万5,729台（同31.7%増）、9月は81万4,372台（同24.2%増）と伸びています。プラズマテレビは昨年が123万台余で前年比4.1%減、今年上半期（1～6月）も48万9,000台で前年同期比8.7%減、7月は8万8,311台（前年同月比24.1%減）、8月は11万9,487台（同28.5%増）、9月は12万6,916台（同31.0%増）と8月、9月は増加に転じています。

デジタルカメラは昨年の生産台数が3,627万台で前年比12.4%増、今年上半期の生産は1,194万台で前年同期比34.7%減、7月は194.5万台（前年同月比35.9%減）、8月は171.5万台（同31.8%減）、9月は242.6万台（同35.9%減）。

パソコン（デスクトップ型とノート型の合計）は昨年の生産が752.4万台で前年比9.9%減、今年上半期は328.8万台で前年同期比19.6%減、7月は53.1万台（前年同月比6.7%減）、8月は47.2万台（同25.7%減）、9月は53.5万台（同22.6%減）という生産状況。

携帯電話は昨年の生産が3,532万台で前年比23.0%の減少、今年上半期は1,285万台で前年同期比41.0%減、7月生産は164万台（前年同月比45.6%減）、8月は156万台（同22.6%減）、9月は182万台（同16.2%増）と推移。9月に入って生産がプラスになっています。

DVDビデオの生産は昨年が236.5万台で前年比は59.2%増と伸び、今年上半期も100.6万台で前年同期比4.2%の増加に。しかし、7月は12.6万台（前年同月比40.6%減）、8月は10.1万台（同45.9%減）、9月は16.8万台（同41.5%減）と推移しています。



# イワタボルトはあなたの会社に 最適締結システムを提供します

**本社** 〒141-8508 東京都品川区西五反田 2-32-4  
 03(3493)0211(代表) FAX. 03(3493)2096  
**五反田営業所** 03(3493)0221(代表)  
**本社SOFI課** 03(3493)0251  
**本社海外課** 03(3493)0254  
**本社資材課** 03(3493)0252  
**品質管理課** 03(3493)0253  
**技術開発課** 03(3493)0214  
**栃木工場** 〒329-2331 栃木県塩谷郡塩谷町大字田所字八汐 1601-6  
 0287(45)1051(代表) FAX. 0287(45)1053  
**一関分室** 〒021-0902 岩手県一関市萩荘字打ノ目 244-1  
 0191(24)4110(代表) FAX. 0191(24)4180  
**山形営業所** 〒990-0073 山形県山形市大野目 4-2-60  
 023(631)6321(代表) FAX. 023(631)6322  
**仙台営業所** 〒981-1224 宮城県名取市増田 6-3-46  
 022(384)0265(代表) FAX. 022(384)0694  
**福島営業所** 〒963-0111 福島県郡山市安積町荒井字茸谷地 41-1  
 024(945)9610(代表) FAX. 024(945)9605  
**宇都宮営業所** 〒329-2331 栃木県塩谷郡塩谷町大字田所字八汐 1601-6  
 0287(45)1421(代表) FAX. 0287(45)1422  
**栃木分室** 〒321-3325 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台 56-2 ホダ開発ビル  
 028(677)4721(代表) FAX. 028(677)4719  
**上田営業所** 〒386-0005 長野県上田市古里 29-23  
 0268(26)1295(代表) FAX. 0268(26)1259  
**群馬営業所** 〒370-3524 群馬県高崎市中央町 621-6  
 027(372)4361(代表) FAX. 027(372)4366  
**太田営業所** 〒373-0841 群馬県太田市岩瀬川町 113-3  
 0276(46)1796(代表) FAX. 0276(46)1764  
**埼玉営業所** 〒364-0013 埼玉県北本市中丸 4-72 番地  
 048(591)2212(代表) FAX. 048(591)2261  
**つくば営業所** 〒305-0045 茨城県つくば市梅園 2-27-25  
 029(855)0764(代表) FAX. 029(855)0769  
**千葉営業所** 〒292-0834 千葉県木更津市潮見 6-10  
 0438(37)3094(代表) FAX. 0438(37)3194  
**多摩営業所** 〒196-0032 東京都昭島市郷地町 2-38-3  
 042(541)5534(代表) FAX. 042(541)6416  
**横浜営業所** 〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦 2-13-38  
 045(781)4311(代表) FAX. 045(781)4361  
**厚木営業所** 〒243-0203 神奈川県厚木市下荻野 518 番地  
 046(241)7021(代表) FAX. 046(241)7023  
**藤沢営業所** 〒252-0804 神奈川県藤沢市湘南台 1-21-5  
 0466(44)1277(代表) FAX. 0466(44)8816  
**富士営業所** 〒419-0201 静岡県富士市厚原 367-7  
 0545(71)3588(代表) FAX. 0545(71)2538  
**浜松営業所** 〒430-0831 静岡県浜松市南区御給町 179-1  
 053(425)1118(代表) FAX. 053(425)9448  
**刈谷営業所** 〒448-0803 愛知県刈谷市野田町新上納 29-1  
 0566(24)6321(代表) FAX. 0566(24)6326  
**名古屋営業所** 〒452-0847 愛知県名古屋市中区野南町 78 番地  
 052(502)7761(代表) FAX. 052(502)7763  
**三重営業所** 〒510-0874 三重県四日市市河原町藤市 917-1  
 059(347)1941(代表) FAX. 059(347)1867  
**大阪営業所** 〒581-0822 大阪府八尾市高砂町 3-3-16  
 072(923)7910(代表) FAX. 072(923)7911  
**福岡営業所** 〒824-0058 福岡県行橋市長木字帽子形 372-1  
 0930(23)9444(代表) FAX. 0930(23)9451  
**久留米営業所** 〒839-0808 福岡県久留米市東合川新町 11-13  
 0942(45)3451(代表) FAX. 0942(45)3452

**IWATA BOLT HONG KONG CO., LTD. 【香港】**  
 UNIT B, 1/F, KOON WAH MIRROR GROUP  
 BUILDING, NO.2 YUEN SHUN CIRCUIT, YUEN  
 CHAU KOK, SHATIN, N.T. HONG KONG.  
 852-2649-9110 FAX. 852-2646-6119  
**IWATA BOLT(SHANGHAI)CO., LTD. 【上海】**  
 PART B, NO.39 BUILDING, 461 HUA JING  
 ROAD, SHANGHAI WAIGAOQIAO FREE  
 TRADE ZONE, P. R. CHINA ZIP 200131  
 86-21-5046-3037 FAX. 86-21-5046-3038  
**IWATA BOLT(SHANGHAI)CO., LTD. SUZHOU BRANCH  
 【蘇州支店】**  
 UNIT A1 NO.29 ZHONG HUAN BUILDING,  
 369 LUSHAN ROAD, SUZHOU, JIANGSU  
 PROVINCE, P.R. CHINA ZIP215129  
 86-512-6937-0030 FAX. 86-512-6937-0031  
**IWATA BOLT(WUHAN)CO., LTD. 【武漢】**  
 1F, BLOCK H, EAST AREA OF CIVILIAN  
 TECHNOLOGY INDUSTRIAL PARK,  
 ZHUANYANG AVE, WUHAN ECONOMIC &  
 TECHNOLOGICAL DEVELOPMENT ZONE,  
 WUHAN, HUBEI, P.R. CHINA ZIP430056  
 86-27-8429-7871 FAX. 86-27-8429-7874  
**IWATA BOLT(SHENZHEN)CO., LTD. 【深圳工場】**  
 NO.001-12 INDUSTRIAL ESTATE ZONE, TONG  
 FUYU TANG XIA YONG, SONG GANG STREET,  
 BAO AN DISTRICT, SHEN ZHEN CITY, GUANG  
 DONG PROVINCE, CHINA ZIP 518105  
 86-755-2714-0442 FAX. 86-755-2714-0443  
**IWATA BOLT TRADING(SHENZHEN)CO., LTD.  
 【深圳貿易】**  
 UNIT A2/F XINGDA LOGISTICS BUILDING  
 NO.3, LANHUA ROAD FUTIAN FREE TRADE  
 ZONE SHENZHEN CHINA ZIP 518038  
 86-755-6130-1077 FAX. 86-755-6130-1080  
**IWATA BOLT(THAILAND)CO., LTD. 【タイ】**  
 41/74-75 UNIT F5-F6, BANGNA-TRAD RD.  
 KM. 16.5, T. BANGCHALONG, A. BANGPLEE,  
 SAMUTPRAKARN 10540 THAILAND  
 66-2-740-7860 FAX. 66-2-740-7863  
**IWATA BOLT SINGAPORE PTE. LTD. 【シンガポール】**  
 NO.10 BENOI CRESCENT JURONG TOWN  
 SINGAPORE 629973  
 65-6266-3794・3795 FAX. 65-6266-2115  
**IBK FASTENER MALAYSIA SDN. BHD 【マレーシア】**  
 No.2, JALAN PJ 11/3 BANDARSUNWAY 46510  
 PETALING JAYA SELANGOR, MALAYSIA  
 60-3-56380215 FAX. 60-3-56380218  
**IWATA BOLT USA INC. 【U.S.A.本社】**  
 7131 ORANGEWOOD AVE. GARDEN GROVE,  
 CALIFORNIA 92841-1409 USA  
 1-714-897-0800 FAX. 1-714-897-0888  
**IWATA BOLT USA INC. 【オハイオ工場】**  
 102 IWATA DRIVE, FAIRFIELD, OHIO 45014  
 USA  
 1-513-942-7070 FAX. 1-513-942-5566  
**IWATA BOLT USA INC. 【ロサンゼルス支店】**  
 7131 ORANGEWOOD AVE., GARDEN GROVE,  
 CALIFORNIA 92841-1409 USA  
 1-714-894-7302 FAX. 1-714-897-0888  
**IWATA BOLT USA INC. 【アトランタ支店】**  
 5324 GA HWY 85 SUITE 900 FOREST PARK.  
 GEORGIA 30297 USA  
 1-404-762-8404 FAX. 1-404-669-9606  
**IWATA BOLT USA INC. 【オハイオ支店】**  
 102 IWATA DRIVE, FAIRFIELD, OHIO 45014  
 USA  
 1-513-942-5050 FAX. 1-513-942-5566  
**IWATA BOLT USA INC. 【ナッシュビル支店】**  
 401 AIRPARK CENTER DRIVE NASHVILLE,  
 TENNESSEE 37217 USA  
 1-615-365-1201 FAX. 1-615-365-1206  
**IWATA BOLT USA INC. 【カナダ支店】**  
 1199 RINGWELL DRIVE, UNIT B, NEWMARKET,  
 ONTARIO L3Y 7V1 CANADA  
 1-905-953-9433 FAX. 1-905-953-0167  
**IWATA BOLT MEXICANA, S.A. DE C.V. 【メキシコ】**  
 PROL. MILO NO. 610 COL. LA NOGALERA  
 GUADALAJARA, JALISCO C.P. 44470  
 52-33-3666-2370 FAX. 52-33-3666-2373

— ISO14001 認証企業・ISO9001 認証企業・ISO/IEC17025 認証企業 — URL <http://www.iwatabolt.co.jp> —

# イワタボルト株式会社